

『雷から身を守る』

従先日、ゴルフ中に雷雨警報が鳴りプレー中断となりました。結局予報でしばらく続くようなので中止することとなりました。ゴルフ場で雷鳴、稲光を感じることは本当に怖いものです。雷雨に遭遇した時の対処方法は、耳にすることはありますが、確かな情報と自信をもって答えることのできる方はどれくらいおられるでしょうか？

人体は落雷の電流に対しては導体であり、落雷を受ければ体内または皮膚表面を流れ様々な損傷を引き起こします。大電流が頭部から上半身を流れると心肺停止を引き起こす可能性があります。その他熱傷(皮膚表面を電流が流れることによる電紋と呼ばれるシダのへのような模様が現れることがあるそうです)、一過性意識障害、鼓膜穿孔などがあるといわれています。

人体への雷撃パターンは主に7つあり直撃、落雷を行けた物体や人からの側撃、地面に接している2点間の電位差に起因する電流が流れる歩幅電圧、爆風などがあります。落雷にまつわる誤解として電気を通しやすいもの＝危険、電気を通さないもの＝安全という認識がありますが、これは誤解だそうです。

現在では身に着けた金属製品には人体に流れる電流を減らす効果(ジッパー効果)あることが確かめられているとのことです。ただし傘やゴルフクラブを高く上げることは雷を誘引するため論外です。

同じく長靴やレインコートなどのゴム製品が安全であるというのも間違った認識であります。雷の高電圧に対しては、ゴム製品の絶縁効果は皆無であることは立証されています。屋内は基本的には安全ですが、電化製品は雷の侵入ルートにつながっているためこれらの電気器具からは1m以上離れることが良いとされています。また水道管や排水管などの金属管を伝わる可能性もあるので、落雷時には入浴は避けた方が良いとされています。

ではゴルフ場も含め屋外で落雷の危険を感じた場合はどうすることがよいのでしょうか。第一に安全な建物や乗り物の内部に避難することです。安全な建物とは、鉄筋コンクリート製の建物の内部、自動車・電車・飛行機などの乗り物の内部、避雷設備の施された建物の内部、本格的な木造建造物の内部、などです。一方、掘っ立て小屋、テント、オープンカー、ゴルフカートなどは保護された空間とはいえ安全な場所ではありません。

また周囲に建物がない場合は電線(避雷針に近い役割)の下は屋外で安全性の高い場所といえるようです。金属でできている電柱や鉄塔の付近も4mの距離をとればその付近はかなり安全と言われています。高さ5m以上の高い物体も比較的安全性の高い場所ではありますが側撃を避けるため4mの距離を開けた方がよいようです。ゴルフ場のようにこのような安全な場所への避難が困難な場合は、頭をなるべく低くして両足を閉じて耳を塞いでしゃがむ姿勢がよいとのことです。腹ばいは付近に落雷した場合の歩幅電圧による心臓への通電の可能性があり推奨されません。

決してやってはいけないことは、頭より高くものを掲げること、木の下での待機、木造建造物の軒下での待機です。

〈身に危険を感じた場合に推奨される姿勢〉



鉄筋コンクリートのビルや車の中に避難

建物の中に入る 軒下は危険  
買い物中や通勤・通学途中なら  
近くのビルの中へ駆け込む  
  
外での活動再開の目安は  
雷鳴が30分間しないこと

